

心理学科の人材育成に関する目的と3つのポリシー 【学士（心理学）】

学部の人材育成に関する目的（甲南女子大学学則 第2条）	学科の人材育成に関する目的（甲南女子大学学則 第2条）
現代社会に生きる人間を理解し、よりよく生きるために、人間とその環境の多様性・複雑性を科学的・総合的に探求し、社会に生きる人間に関わる現実的な諸課題・諸問題に実践的に関わり、解決していく人材を育成する。	基礎領域から応用領域まで幅広い心理学教育を行うことで、客観的な観察力、論理的な思考、数量的なデータ処理能力、コミュニケーション力を身につけ、社会で活躍できる人材を育成する。

ディプロマ・ポリシー			カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
DP1 知識・理解	(1)	人間のさまざまな行動の法則性や、生涯における心と体の発達、心理的な問題やその援助方法、人と動物の違いなど、様々な対象やアプローチの仕方をもつ心理学の領域を幅広く理解している。	実社会で出会うさまざまな心理的な問題に対応するためには、幅の広い心理学の専門的知識やアプローチが求められる。 甲南女子大学人間科学部心理学科では、基礎から応用まで多領域の心理学を一通り学ぶことができるようカリキュラムが設定されている。幅広い領域をバランスよく学ぶことで、実社会のさまざまな問題に心理学的に対応できる人材教育を行う。 当心理学科では以下の6つの段階に分けてカリキュラムをデザインしている。 【第1段階：心理学的リテラシー】 心理学について基礎的な知識を習得するとともに、実験心理学の手法や測方法を学び、科学的な心理学の視点を獲得する。 【第2段階：実践・試行】 第1段階の授業内容を応用し、自己や身近な問題に対して心理学的に考えるトレーニングを行う。 【第3段階：専門性】 人間を理解するための様々な心理学的な視点を身につけるため個別の専門領域を学んでいく。 【第4段階：アカデミック・ライティング】 第3段階の専門的な視点を実用化するため、心理学的な現象を測定し分析する高度な研究手法やデータ解析について学び、科学的なレポートとしてまとめる能力を身につける。 【第5段階：キャリアデザイン】 それまで学んできた専門知識とこれから自分が目指す将来像の結び付けを行い、心理学の専門性を活かしたキャリアデザインを考える。そして、3年次では自分のキャリアデザインに応じて専門ゼミを選択し、4年次での研究課題に向けて、論理的な読解力や文章作成能力を身につけるための方法論や専門理論を中心に学んでいく。 【第6段階：能力の統合化と実践】 3年次までに修得した専門科目の内容を、専門ゼミでの研究課題に取り組むことで、さまざまな現象を心理学的に解明することができる能力として統合させていく。さらに、就職や大学院進学に向けてより応用実践的な科目を学び、実社会の具体的な問題に対応できる実践能力の向上を目指す。	心理学科では、次のような学生を求めます。 1. 関心・意欲・態度 人の行動やその心理に強い関心を持って、科学的態度で臨むことができ、客観的にものごとに対処しようとする姿勢と実践力を有している人 2. 知識・教養 心理学の諸領域の幅広い教養と専門的知識を学ぶにあたり、高等学校までに履修した国語、数学、英語、社会、理科などの心理現象を理解するのに必要な基礎的な学力を習得している人 3. 思考力・判断力・表現力 心理学を学びそのことをこれからの社会に貢献できるように表現していく発信力と行動力を有している人 4. 協働性・主体性 自主的、積極的に学ぶ意欲を持って、実験・実習などの少人数クラスによく適応し、主体的にグループワークに参加しようとする態度を持っている人
	(2)	心理学の研究方法を正しく理解し、問題や研究目的に応じてデータ収集の仕方や分析方法を選ぶことができる。		
	(3)	社会や日常生活で出会う問題に対して、学んだ知識をもとに心理学的な見地から考えることができる。		
DP2 汎用的技能	(1)	実験や調査の実施を経験し、数量的なデータの収集や統計的な分析と考察、そして図表化を含め適切に結果を記述し、発表する力を身につけている。		
	(2)	的確な情報検索により必要な資料や論文、専門書籍を見つけ、それを読解し、それらをもとに論理的かつ批判的な思考ができる。		
	(3)	演習や発表などを通して、他者の意見に耳を傾け、自分の考えを人に伝える力を身につけている。		
DP3 態度・志向性	(1)	人の多様性を深く理解し、互いの個性を尊重しつつ、様々な境遇にある人への共感や配慮ができる。		
	(2)	自分の知識や能力を社会の中で発揮するとともに、他者の力を借り、協力する姿勢をもっている。		
	(3)	人は生涯、成長・発達していくことを前提に、その時々に必要な知識・技能を学び続ける姿勢をもっている。		
DP4 統合的な学習経験と創造的な思考力	(1)	困難な課題や逆境に直面しても、心理学の知識や身につけた技能を使って、問題解決に向けて対処することができる。		
	(2)	社会や身近にある課題に気づき、自分が身につけた知識や技能を活用すると共に、他者と協働することで、社会環境の改善に貢献する姿勢をもっている。		